

自己評価結果等の公表に係る届出書

令和6年4月19日

鳥取県知事 様

所在地 鳥取県鳥取市気高町北浜3丁目158番地
 法人名 特定非営利活動法人因幡万笑の会
 代表者 職 氏名 理事長 西村俊二

1. 事業所の状況

事業所の名称	スマイルセンター倉吉									
事業所番号	3	1	5	1	4	0	0	0	1	1
事業所の所在地	鳥取県東伯郡北栄町江北88番地									
事業の種別	<input checked="" type="checkbox"/> 児童発達支援 <input checked="" type="checkbox"/> 放課後等デイサービス									
連絡先	TEL	0858-36-6262								
	E-mail									

2. 取組時期

①保護者による評価 (保護者にアンケートを実施した期間)	令和6年2月15日 ~ 令和6年2月29日
②職員による評価 (個々の職員が自己評価を実施した期間)	令和6年2月15日 ~ 令和6年2月29日
③事業所全体による評価 (①及び②の結果を踏まえて、事業所全体としての自己評価結果を実施した期間)	令和6年3月1日 ~ 令和6年3月20日

3. 公表結果

公表日	令和6年3月30日
公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> インターネットによる公表
	URL: kurayoshi@smilecenter.jp
	<input type="checkbox"/> 紙媒体を事業所内に掲示の上、保護者へ配布

※公表している自己評価結果(保護者等からの事業所評価の集計結果、事業所全体における自己評価結果)を添付してください

担当者	中江 陽子
連絡先(TEL)	0858-36-6262

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表: 令和6年3月30日

事業所名 スマイルセンター倉吉

保護者等数(児童数)10名 回収数 9名 割合 90 %

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	6	0	0	3		狭い空間の中、活動により住み分けをしながら活動を工夫していく。
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	6	0	0	3	配置数はわからない。	重要事項説明書にて改めて説明していく。
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	0	0	3	車を停めるところに屋根があればよい。	再度検討していく。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	9	0	0	0		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	8	1	0	0		月ごとに活動を変えたり、個々に活動を変えていくようにしていく。
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	0	0	10	0		今後検討していく。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	8	1	0	0		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	9	0	0	0		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8	1	0	0		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	5	0	0	5		父母の会の連携に協力している。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	8	0	0	1		苦情・相談には、その日のうちに解決出来る様対応している。
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	2	5	0	2		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	6	0	0	3		自己評価の結果をホームページで発信していく。
14 個人情報に十分注意しているか	8	0	0	1			
非常時 等の 対応	15 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	5	3	0	1		再度来所時やモニタリング時に周知する。
	16 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6	0	0	3		訓練後にはノートやお便りで周知する。
満足 度	17 子どもは通所を楽しみにしているか	9	0	0	0	楽しそうに通っています。	楽しめる活動をこれからも続いていく。
	18 事業所の支援に満足しているか	10	0	0	0		

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせることで実施されることが想定されている。

生活介護・放課後等デイサービス・児童発達事業所における自己評価

公表：令和6年3月30日

事業所名 スマイルセンター倉吉

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	3	3	0	活動により、住み分けしている。	
	2	職員の配置数は適切である	3	3	0		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	4	2	0		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	2	4	0		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	3	0		今回の結果をもとに業務改善を行っていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	0		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	0	1	5		内部評価や保護者の意見を参考に改善に努めていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2	0		リモート研修、内部研修など参加しやすい環境設定していく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6	0	0		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	0		アセスメントツールを職員全体で勉強会していく予定。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0	0		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	2	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	4	1	1		課題をきめ細やかに設定できていないことも多いので、何が出来ていないのかを早急に会議を行い、対策をとっていきたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	4	1	1		人数が少なく、障がいも様々なので、出来る集団活動を模索している。
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	1	0			

保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1	0		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0	0		
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	0	父母の会の開催にあたり、連絡や引継ぎなど協力している。	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0	0		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	0		
	35	個人情報に十分注意している	6	0	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	1	0		
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	0	6		
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	2	0		職員、保護者に周知が不十分なので、早急に対策を取っていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	3	0		年間計画を立てて、定期的に訓練を行っていく。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	3	0	定期的に身体拘束対策、虐待防止委員会を開き、話し合いを行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6	0	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	0	6	0		現在食物アレルギーのある利用者はいないが、今後対策がなされるよう、準備していく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0	0		ヒヤリハットを書くように日々声掛けを行い、その都度事例検討するよう心掛けている。